

漁協青壮年部移動相談に係る部長事務局会議

瀬 底 正 武

1. 目 的

漁協青壮年部の活動支援を目的に、平成8年度から9年度にかけて、漁青連加入12漁協青壮年部について、巡回移動相談を開催した。（移動相談実施状況別紙参照）

移動相談終了後、総括会議と銘打って、部長事務局会議を平成9年10月31日水産業改良普及所において、開催された。

会議内容は、各青壮年部の代表者による活動報告の後、66式による全体討議が行われた。
テーマ：『夢ある青壮年部活動を目指すには』

2. 全体の総括

「青壮年部活動の現状と今後の方向」

3. 青壮年部活動の現状

- 1) 活動計画の内容が具体的かつ計画的でない。
- 2) 従って、活動方針が定まらない。
- 3) 集会も計画的に開催されてないため、集まりも悪い。
- 4) 一番大切な生活の向上を図るための生産活動課題の設定がなされていない。
- 5) 組織活動の基本である通常総会が定期的に行われていない。
- 6) 結局、何をしてよいか漠然として、方向が定まらないため、ボランティア的行事活動のみに終止してきた。そのことが、青壮年部活動を鈍化させてきた大きな要因ではないか。

4. 今後の方向

- 1) 今一度、3段階による青壮年部活動を考える。
- 2) 青壮年部活動の活性化は、今後の青壮年部

に課せられた大きなテーマであろう。

そのためには、次のような目標をたてて、真剣に取り組むしかない。

- ◇地域漁業の担い手としての役割を果たすために関係機関との連携ができ、自らの資質の向上のための漁業技術等の研究、学習意欲の高い青壮年を目指す。
 - ◇高い漁業技術を持ち、漁業の先導者としての機能を有するために、科学的にものを考え、観察力、判断力、応用力を常に高めていこうとする意欲の高い青壮年を目指す。
 - ◇地域の発展のためにリーダーとして、活躍できる能力を養うために地域やグループ活動に進んで参画し、積極的に活動を推進する青壮年を目指す。
 - ◇ゆとりある漁業を展開し、ゆとりある生活を実践するために異業種との交流、仕事意外のグループ活動にも参加し、生活を楽しめる青壮年を目指す。
 - ◇仲間や地域から信頼されるように協調性があり、心身ともに健全で人間的に魅力ある青壮年を目指す。
 - ◇最後に、特徴ある漁業経営を展開する青壮年になるために、積極的に新しいものにチャレンジする行動目標の明確な青壮年を目指す。
- ※いずれにしても、漁協青壮年部を活性化する今後の方向性の一つに「漁協青壮年部の生身のコミュニケーション（会話）」を多く取り入れ、仲間と魚と会話できる能力と情報を自分のものとして、収集できる青壮年部でありたい。（参考資料：営農推進課専技団）
- ※平成9年度後期以降の移動相談の方向として
- ◇モデル的な青壮年部を選定し、これまでに総括された問題点等踏まえて、高密度的な実践

活動を展開する。

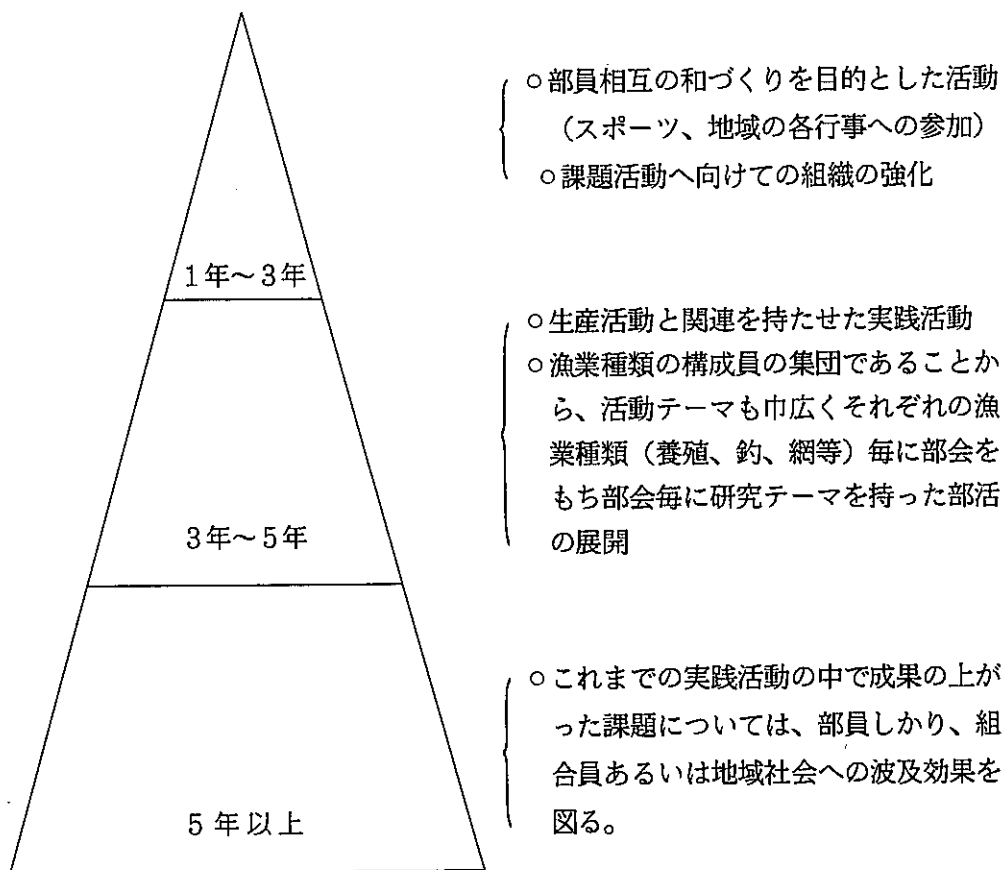
◇実践活動の成果については、部長事務局会議

か漁青連の総会等で紹介し、今後の青壮年部活動の参考にしたい。

三段階による青壮年部活動を考える

移動相談を通して、各漁協青年部と意見交換を行った結果、下記のように3段階による活動を展開することにより一歩進んだ青年部活動が出来るのではないかを模索することができた。

(図説明)



(3段階における青年部活動)

したがって、青年部及びグループ活動を進めるにあたって、次のような点を考慮しておくことが必要である。

第1は、話し合いによる問題解決である。グループ活動は自由と平等を原則に同列のもの同志の話し合いによって、問題を解決することである。

第2は、集団活動を苦手とする人間性の認識である。人間は集団をはなれては生活できないが、本質は集団活動を好まない傾向がつよい。そのことを認識し、何のためにグループ活動をするのか、目標を明確にし、新しい協同意識を高める努力が大切である。

第3は、集団は封鎖性をもち孤立化する本質がある。このことを認識し集団と集団、組織と組織のヨコの関係を重視し、共通性にもとづく連系活動を考えることである。

平成8年度・平成9年度前期における青壮年部移動相談実施状況

青壮年部名	代表者名	実施時期	実 施 状 況
八重山 漁協青壮年部	仲 田 森 浩 (部員数57名)	平成8年 8月15日	■当日理事会等と重なり部員間の討議が十分にできなかった。仲田部長によると移動相談前日に役員と部員の代表を集めて、課題設定に向けて長時間に及ぶ議論がなされたようだ。その後、内容について知らされてなく、再度の移動相談も開催されてない。 ■掛け持ちの移動相談は問題があり、今後、日程調整等十分検討する必要がある。参加者7名
伊江 漁協青壮年部	上 間 智 (部員数20名)	平成8年 11月21日	■当日は、漁協関係者、村役場、指導漁業士等の参加の元で開催された。青壮年部も16名の参加があり有意義な移動相談であった。 ■当青壮年部は、世代交替が極めて順調にいらっているようで、後継者もしっかりと定着している。全体的な感想は、世代交替時の引継が十分でなかったのか「青壮年部活動」の内用等熟知してない部分が感じられた。今後、学習会（各県の事例参照）等回数を重ねる必要がある。
沖縄市 漁協青壮年部	小 嶺 仁 (部員数15名)	平成8年 11月20日	■当日は、集まりが大変悪く1時間遅れで開催された。青壮年部6名の参加の元で、8・9年度相談メニューについて、説明を行う。当青壮年部は、計画作りの段階と言うよりも青壮年婦人部との共同組織の是非が問われている状況にあり、しばらくは組織の再編等様子を見る必要がある。
石川市 漁協青壮年部	伊 波 盛 光 (部員数20名)	平成8年 12月6日	■青壮年部12名、漁協関係者、市役所等の参加の元で開催された。当青壮年部は休止状態にあり、組織の見直しが求められている。 ■出席者全員組織の必要性を感じているものの旗振りがいないことと、事務局が機能していないこととあって、今後、現役員を中心に結成準備会を発足させ、その、旗振りを参事が担うことになった。
久米島 漁協青壮年部	与 座 嘉 雄 (部員数20名)	平成8年 12月14日	■青壮年部25名、漁協関係者等の参加の元で開催予定であったが、当日、ソフトボール大会、暮れの忘年会とスケジュールの調整が出来ず、結局中途半端な移動相談に終わった。 ■その後、再度開催できず、掛け持ち実施の場合の持ち方等事前に詰める必要がある。
那覇市沿岸 漁協青壮年部	名嘉村 彰 (部員数20名)	平成9年 2月10日	■青壮年部9名、漁協関係者等の参加のもと、予定通り開催された。モズク養殖を試みるための種苗保存の実践活動（途中中断……）潜水器漁業一辺倒からの転換のため魚類養殖及び放流の実践等活動課題に取り組んでいる。今後、さらなる組織の強化を図りつつ永続的な活動の展開を願う。 ■当青壮年部は、平成7年度に組織の再編を図り、名嘉村部長の元再スタートした。

青壮年部名	代表者名	実施時期	実 施 状 況
伊良部町 漁協青壮年部	伊 地 博 喜 (部員数12名)	平成9年 5月29日	■青壮年部8名、漁協関係者、町役場、漁業士、宮古支庁普及員参加の元で開催された。 ■平成8年度以降組織活動の見直しが図られつつある。異業種からの参入によるリ・ダーが育ちつつある。さらに、支庁普及員との共同作業による、活動内用等検討のためのアンケート調査を予定している。
勝連 漁協青壮年部	新 屋 光 彦 (部員数22名)	平成9年 7月8日	■青壮年部15名、漁協関係者の参加の元開催された。活動内用はこれまで通りで、特に変わったことはない。当日は活動計画内用等について、具体的な話し合いは持たれず、漁船漁業・増養殖の紹介に終わった。 ■今後、学習会等通じて「青壮年部活動の実態・必要性について」部員間で意見交換を図る必要がある。 ■ただ、全体的に言えることだが、この場合、部員が本気になって、やる気を出さないと建設的な話し合いが進展しない。
知念村 漁協青壮年部	内 間 待 仁 (部員数25名)	平成9年 8月28日	■地もと開催ができず、普及所に部長、副部長、事務局（漁協職員）に来て貰い意見交換等行う。 ■当地区は、久高島と本島側の組合員で構成されている青壮年部である。 ■一同に会して行う、会議の招集はなかなか難しいようだ。支部組織を置くなど運営面で活動の改善が出来ないか話し合う必要がある。平成9年度の移動相談内容について説明を行う。
港川 漁協青壮年部	玉 城 繁 博 (部員数22名)		■部員間の調整が図れず未開催 開催方法等（何故集まらないのか、どうすれば集まるか）検討する必要がある。
糸満 漁協青壮年部	上 原 智 哲 (部員数20名)		■移動相談が開かれない状況が4～5年続いている。移動相談は、青壮年部に仕事を押し付けるとか、無理難題を与えるようなことをするために、巡回しているわけではない。組織結成後の活動の支援、お手伝いが出来ないか、手伝うとすれば何が一番いい方法なのかを部員と相談しながら活動しやすい方法を皆で考えようと言う目的で開催しているので、楽しく、気軽な気持ちで参加してほしい。
恩納村 漁協青壮年部	銘 苅 宗 和 (部員数18名)		■数年前から活動停止 理由は分からないが、しばらくは休部したいとのことである。

平成9年度漁協青壮年部部長事務局会議開催

